

オランダのライデン市にあるシーボルトハウスは、特別展示を行なう部屋1室と、当コレクションを展示するパノラマ室、植物相と動物相の部屋、秘藏品室、地図の部屋の4室からなる
写真提供：シーボルトハウス（以下も同じ）

日本で最も有名な「ダッチマン（オランダ人）」 シーボルトが結ぶ 21世紀の蘭日交流

ハンス カイバース
Hans Kuijpers

シーボルトハウス館長

ハンス・カイバース●1966年にオランダで生まれる。87～88年、長崎総合科学大学に留学、92年ライデン大学日本語学卒業後、93年より在大阪・神戸オランダ総領事館勤務。2001年より（株）ノリツ銅機勤務を経て、07年より現職



私 が初めて日本の地を踏んだのは1987年。ライデン大学で日本を学ぶ学生だったころでした。日本の方々との出会いは、よくこなやり取りで始まったものです。オランダから来たと言うと、たいてい皆さんは「ああ、チューリップ、シーボルト、ミッフィーちゃん、ヘーシンク！」。なんと順序まで同じだったこともしば

しばありました。

もちろんチューリップは知っていましたし、7年間柔道をしていたのでアントン・ヘーシンクも知っていました。また、すぐに「ミッフィーちゃん」というのがデイク・ブルーナの有名なキャラクター「ネインチュ（うさこちゃん）」だということも知りました。しかし、恥ずかしながら、と言わねばなりません、「シーボルト」となると、誰のことやら、あるいは何のことやら、皆目見当が付きませんでした。

江戸時代の文物を展示

それから20年が経ち、9年間の日本での生活を経て、私ももう少し賢くなりました。日本で最も有名なダッチマンは、江戸時代の日本へ、オランダ政府に派遣されてやってきたドイツ人医師、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト。彼は出島で1823～29年まで暮らし、オランダ政府の命のもと、日本についての情報を、それが文字であれ絵であれ、はたまた実物であれ、片端から収集しました。

彼が集めた植物学、動物学、民族学的資料は数万点におよび、初めての来日江戸時代の日本から持ち帰った資

料のほとんどは、現在も大学都市ライデンの国立民族学博物館、国立自然史博物館、国立植物園、そしてライデン大学附属図書館で保存されています。05年3月からは、シーボルトのコレクションから選ばれた約800点の資料がライデンのシーボルトハウスで展示されています。

シーボルトハウスの建物は、シーボルトが生活し、1830年代に帰国後、世界で最初の日本博物館を開いた、とても美しいカナル・ハウス（運河沿いの建物）を利用しています。このハウスは、日本とオランダの政府および民間からの支援で改装されました。

使い古した日用品は普通なら捨ててしまいますから、シーボルトが日本から持ち帰った初期のコレクションには、オランダにしか残っていない品々がたくさん含まれています。その点で、彼のコレクションは大変ユニークなもので、江戸時代の日本の暮らしをととてもよく伝えてくれます。07年1月1日から、私はこのすばらしい博物館の館長を務める幸運に恵まれました。

交易から始まった両国関係

私の初仕事の一つは、シーボルトハ

←川原慶賀・画「ふぐ」は秘藏品室に保管。
魚類は標本保存が難しいため、シーボルトは川原慶賀に日本近海に住む魚を描かせ、ヨーロッパに紹介した。なお現在、長崎歴史文化博物館で「シーボルトの水族館」と題した、川原慶賀の魚図の展覧会が開催されている（～9月2日）
↓パノラマ室には、織物コーナーの「着物」をはじめとして、約500点の展示物がある



ウス財団の会長、ファン・ベルヘンさんに伴って日本を訪れることでした。ジャパンファウンデーションの招へいにより、シーボルトや江戸時代、そしてオランダと日本の

関係を研究している研究者、専

門家の皆様とお会いしました。

さらに、私たちはたくさんの日本の博物館を訪れ、資料がどのようにに展示されているかを視察しました。佐倉、東京、長崎、平戸、大阪、神戸を訪れ、わずか10日間でも、日本で行なわれている研究や日本とオランダの関係において、シーボルトが果たしている役割の重要性について、大変多くのことを知ることができました。

このユニークな関係は、当時

の交易を求めた人々の気持ちから始まりました。その後、1600年以降の歴史を彩った平戸、出島、長崎、蘭学、シーボルトといったキーワードは、そのどれもが、私たちの二国間関係の一面を伺わせてくれるものです。

今日でも、どちらの国にも、この絆の「証拠」をたくさん見つけることができます。日本人たちは「ビール」や「コーヒー」をオランダから来た言葉で呼び、「盲腸」など医学用語にもオランダからきたものがあります。一方、オランダ人たちは、17世紀の絵画で着物を描き、日本の陶磁器からはデルフト焼きが生まれました。今も多くのオランダ人の家庭には日本由来の品物があり、また日本ではチューリップやオランダのデザインが親しまれています。近々、歴史的な記念行事が二つ行なわれる予定です。08年は日本とオランダの国交樹立150周年であり、09年は將軍の徳川家康がオランダに貿易許可証（朱印状）を与え、今にいたる両国の交易の幕が上がった記念すべき年。この二つの行事を通して、私たちの国が分かつユニークな関係に、より関心をもってもらえることを願っています。

日本との交流の窓口として

シーボルトハウスとのミッシェンは、シーボルトが日本で担っていた任務の21世紀版です。最大限に「日本についての情報」を提供していくこと。そのために、コレクションの一部を展示するだけでなく、日本の芸術家や、日本にインスパイアされた芸術家たちの企画展示も行なっています。

さらに、私たちはシーボルトに関する科学的な研究を促進していきたいと思っています。06年と07年にはシーボルト・ワーキング・カンファレンスが開催され、ジャパンファウンデーションの支援のもと、日本とオランダの研究者からなるグループがシーボルトの意義や、シーボルトハウスでの展示や活動について議論しました。また、私たちは、シーボルトハウスを日本とオランダのビジネスパートナーたちが出会う場所にしたとも思っています。

日本の方々にも、江戸時代の歴史に触れられる当館の展示は大変興味深いと思います。ヨーロッパへお越しの際は、どうぞライデンのシーボルトハウスを旅程に加えることを忘れずにお待ちしております！
☺（原文は英語）